

平成 31 年 3 月 4 日

妙高戸隠連山国立公園連絡協議会
構成員 各位

妙高戸隠連山国立公園連絡協議会会長

平成 30 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会総会（書面開催）について

平素より、国立公園行政の推進につきまして、格別のご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、協議会の運営への御協力につきましても重ねて御礼申し上げます。

さて、本年度の妙高戸隠連山国立公園連絡協議会総会につきましては、諸般の事情による構成員の方々の負担軽減のため、2月18日に開催しました平成30年度第2回妙高戸隠連山国立公園連絡協議会幹事会でのご了解の下、書面開催とさせていただくこととなりました。

つきましては、下記3点についてお諮りいたしますので、ご意見等ございましたら、平成31年3月15日（金）までに別紙1にてご回答くださいますようお願いいたします。また、ご意見のない場合も同様に、別紙1にてご回答くださいますようお願いいたします。なお、頂いたご意見については、後日、構成員の皆様に共有致します。

記

- 1 平成30年度活動報告（案）及び平成30年度歳入歳出決算（案）について…資料1
- 2 平成31年度活動計画（案）及び平成31年度歳入歳出予算（案）について…資料2
- 3 平成31年度の役員等について…資料3

【問い合わせ先】

妙高戸隠連山国立公園連絡協議会事務局
（環境省信越自然環境事務所国立公園課）
担当 黒田・日高
電話 026-231-6572
FAX 026-235-1226
E-mail 黒田：KAZUMA_KURODA@env. go. jp
日高：CHUYA_HIDAKA@env. go. jp

平成 30 年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 活動報告（案）

平成 30 年度は幹事会のほか、「歩く利用部会」及び「情報発信部会」を設け、行動計画の目標実現に向けて以下の取組を実施した。なお、取組は協議会構成員をはじめ地域住民を含めた協働で行った。

（1）生物多様性の保全

○火打山におけるライチョウ保全に関する取組

ここ 30 年程度で植生の変化が認められた火打山において、ライチョウの生息環境保全のために、試験的に年 2 回のイネ科植物の除去試験を行った。平成 28 年度から行っており、今年度も構成員等（ライチョウ有識者・妙高市・環境省・新潟県生態研究会・長野県ライチョウサポーターズ）が協力して行った。



実験区（右）と対象区（左）の様子



作業の様子

○笹ヶ峰での外来種に対する取組

火打山の登山口の一つである笹ヶ峰において、特定外来生物のオオハンゴウソウの駆除を構成員等（地域住民・妙高市・環境省）が協力して行った。



作業の様子

○いもり池での生物多様性の保全に対する取組

①外来スイレン除去

いもり池の水面に妙高山が映る「逆さ妙高」の景色を取り戻すため、外来スイレン除去で 2 つの事業を行った。一つは、ジョレンによる外来スイレンの引き上げ作業を妙高市主体で構成員等（地域住民・妙高市環境サポーターズ・環境省）が協力して行った。もう一つは、いもり池の一部（約 100 m²）において外来スイレンの根茎を完全に除去し、この後の繁殖の経過を確認するための試験的な取組を環境省のグリーンワーカー事業で行った。



ジョレンによる外来スイレンの除去作業



外来スイレンの根茎からの除去作業

②湿地の生物多様性の保全

いもり池周辺の湿地では、乾燥化、陸地化が進み、ミズバショウなどの湿地植物の生育範囲が狭まっている。ハンノキの侵入と樹林化がその要因の一つと考えられるため、ハンノキ等の伐採を環境省のグリーンワーカー事業で行った。



湿地に侵入したハンノキ

○大谷地湿原での湿原植生の保全に関する取組

飯綱高原の大谷地湿原では、キショウブなどの外来植物やヨシの繁茂がみられ、乾燥地化が懸念されている。その対策として、キショウブの駆除及びヨシの刈取りを行った。作業は構成員等（長野市・飯綱高原観光協会・長野資源循環保全協会・環境省）が協力して行った。



キショウブ駆除作業



ヨシ刈取り
←刈取り前
↓刈取り後



(2) 良好な景観形成

○管理運営計画策定に向けた作業

環境省本省と信越自然環境事務所の調整を実施中。

○良好な景観づくりに関する冊子（版下データ）の作成

地域住民が守るべき国立公園のルールや、管理運営計画書の許認可等取扱方針に記載した「配慮が望まれる事項」を中心とし、地域住民が本国立公園の良好な景観形成のためにできることをまとめた冊子の版下データを作成している。管理運営計画の策定後に印刷を行い、地域住民に配布する。

○良好な景観づくり勉強会 in 赤倉温泉の開催

妙高市赤倉温泉において 12 月 13 日に開催した。講師に堀繁氏（(一社) まちの魅力づくり研究室）を招き、良好なまち並み景観づくりにより集客力を上げるメカニズム・取り組みのポイント等について、講演会、まち歩き及びワークショップを通してその具体的な方法を学び、考えた。地域住民、国立公園内の店舗・宿泊施設の事業者、行政関係者など 25 名が参加した。



講演会



まち歩き



ワークショップ

(3) ロングトレイルの設置

○開通ルート等の検討

①踏査及び詳細ルートの決定

平成 29 年度に検討した T 字型のメインルートをもとに、詳細ルートを検討するための踏査を歩く利用部会のメンバーで行った。歩く利用部会において踏査結果を検討し、詳細ルートを決定した。詳細ルートを決定した区間は次のとおり。

- ・斑尾山山頂～野尻湖西岸（一部、来年度要検討区間あり）
- ・野尻湖西岸～杉野沢（一部、来年度要検討区間あり）
- ・杉野沢～笹ヶ峰
- ・善光寺～一の鳥居苑地
- ・一の鳥居苑地～戸隠牧場（一部、来年度要検討区間あり）
- ・戸隠牧場～氷沢避難小屋
- ・笹ヶ峰～夢見平
- ・笹ヶ峰～小谷温泉



戸隠牧場（五地藏山を望む）



野尻湖畔（妙高山を望む）

②有識者による現地調査

詳細ルート決定のための知見を得るため有識者4名による現地調査を実施した。調査は複数のルート案が検討されている野尻湖南岸～荒瀬原及び戸隠中社～戸隠牧場について行った。



有識者による現地調査



現地調査後のふりかえり

③ロングトレイル詳細ルートの土地所有者等の調査

①で決定した詳細ルートの土地所有者、管理者について、自治体に協力いただき、調査を行っている。

○維持管理体制の方向性の検討

本国立公園のロングトレイルにふさわしい維持管理体制を検討するため、塩の道トレイル、信越トレイル、高島トレイル、みちのく潮風トレイル及びスノーカントリートレイルの情報を収集している。

○サイン配置基本計画の作成

ロングトレイルの安全な利用のため、適切な位置にサイン（道標）を設置する必要がある。トレイル上へのサイン配置の考え方を整理し、基本的な配置計画を作成している。

（４）サインの統一

○妙高戸隠連山国立公園サイン統一デザイン基準の作成

「サイン統一デザイン基準」本体は平成29年度に作成した。今年度はその付表となる地名等の英語表記リストについて、自治体・観光協会の確認後にネイティブによるチェックを経て、完成させた。なお、ピクトグラムについては引き続き検討中。

(5) 登山の活性化

○登山道維持管理体制の構築、整備技術の向上

①登山道の現在の管理体制の共有

土屋教授指導の学生であった三井氏の研究成果を参考にし、本国立公園の登山道における現在の管理体制を整理している。



対象とする登山道（北部）



対象とする登山道（南部）

②登山道整備講習会の実施

戸隠山大洞沢登山道及び雨飾山登山道(小谷温泉ルート)の2ルートにおいて、合同会社 北海道山岳整備より講師を招き、近自然工法による登山道整備講習会を環境省のグリーンワーカー事業で実施した。歩く利用部会の構成員、地域住民等が参加した。



登山道整備前



登山道整備後

○携帯トイレ利用の普及啓発

携帯トイレブースが設置されている戸隠山及び雨飾山の登山口付近において、携帯トイレ利用の普及啓発のため、仮設携帯トイレブースを設置して利用体験や使い方の説明などを行った。

また、普及啓発の一環として、長野市と小谷村から提供を受けた携帯トイレを登山者等に配布した。



携帯トイレの使い方の説明

○火打やまナビのバージョンアップ

平成 29 年度に、火打山の登山道に設置したビーコンを利用して、スマートフォンで火打山の情報を受け取るためのアプリ「火打やまナビ」による情報発信の仕組みづくりを行った。

今年度は「火打やまナビ」をバージョンアップし、7月に配信を開始した。観察する機会の多い植物や鳥を紹介する「いきもの図鑑」、利用者から投稿されたライチョウなどの目撃情報を確認できる「いきもの目撃マップ」、自分の位置を確認できる「GPS 地図表示」といった機能の追加及びコンテンツの改修を行った。



火打やまナビのバージョンアップを紹介するチラシ

(6) エコツアーの活性化

○ジオパークガイド向け勉強会・実地研修及び地域住民向けの意見交換会の実施

環境省では国立公園とジオパークの連携を進めており、糸魚川世界ジオパークについて解説を行うジオパークガイド向けの勉強会・実地研修及び地域住民向けの意見交換会を実施した。

勉強会・実地研修では「NPO 法人 片品・山と森の学校」から講師を招き、ジオパークガイドの技能向上を目的とした勉強会と、ジオサイトでのガイドプログラムづくりや実際にガイドを行う際のポイントについて理解を深めるための実地研修を行った。意見交換会（糸魚川市共催）では、糸魚川ジオパークを活用していくための方法や体制づくりについて、市民・観光業界・研究者・教育関係者などが参加し、さまざまな視点から意見交換を実施した。



実地研修

(7) 情報発信の強化

○夏季イベントの実施

各エリアが持つ魅力を同時期に集中して発信することで、国立公園への来訪動機とすること及び周遊利用を促進することを目的に、夏季イベントとして「妙高戸隠連山国立公園 森遊び！ 2Days フェア」を実施した。8月 25 日（土）、26 日（日）の 2 日間、国立公園内外の 8 施設が「妙高戸隠連山国立公園」という冠のもと、自然や歴史に触れるイベントなど地域の特徴を活かしたイベントを実施した。

夏季イベントポスター



○協議会ホームページの開設

平成 31 年 2 月に協議会ホームページを開設した<<http://myoko-togakushi.jp>>。

トップページのキャプチャ



妙高戸隠連山国立公園のご紹介

～ようこそ。山岳信仰と人々の暮らし息づく一目五山の風景へ～

トップメニューと内容

トップメニュー	内容
大自然で楽しみたいこと 14	総合ガイドブックの電子化
登山おすすめ 6 ルート	Yamakei Online の「山歩きの魅力がギュッと詰まった 妙高戸隠連山国立公園の山に登ろう」へのリンク
一目五山の絶景 32 選	一目五山の絶景 32 選の電子化
見所をめぐるモデルルート	環境省の「国立公園へ出かけよう」の妙高戸隠連山国立公園のおすすめコースのページへのリンク
イベント&ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント&ツアー一覧 ・レポート一覧 ・ガイド一覧
ロングトレイル	ロングトレイルの情報を掲載する
宿泊・食の情報	観光協会の「宿泊」「食」のページへのリンク
その他	

○妙高戸隠連山国立公園 Facebook の運用

平成 30 年 4 月 3 日に開設し、12 月末までに 108 件を投稿。フォロワー数は 478 人。

投稿した記事へのリーチ数（事務局の投稿記事が自分のタイムライン上に表示された人の数）は 250 人から 400 人程度であることが多い。また、投稿に対するリアクション（シェアやコメントなどの反応）の数は 50 件から 80 件程度である。



○国立公園の写真素材の一元的管理

各構成員が国立公園の写真を広報等に使用しやすくするため、各構成員から提供いただいた著作権に問題がない写真を、環境省の妙高戸隠連山国立公園のフォトアルバムのページに収納した。

アドレス：<<http://www.env.go.jp/park/myokotogakushi/photo/index.html>>

○地域との協働での情報発信

環境省の子どもパークレンジャー事業で、戸隠小学校の児童が戸隠地域の自然情報などを発信した。児童が主体となり自然情報などを取りまとめてパンフレットを作成した後、長野駅及び戸隠中社で観光客に対してパンフレットを配布した。作成したパンフレットは戸隠中社の観光情報センター等で配架している。



パンフレットを3種類作成

○国立公園オフィシャルパートナーを利用した情報発信

国立公園オフィシャルパートナーである東日本高速道路株式会社（NEXCO 東日本）のサービスエリア（姨捨サービスエリア及び松代パーキングエリア）に、山登りマップなどのパンフレットを配架いただいた。

○一目五山の絶景 32 選の写真展（試行）

一目五山の絶景 32 選の周知のため、試行的に 32 選に選定された写真展を実施した。

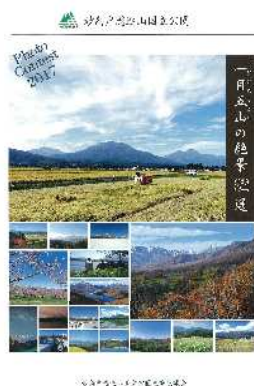
- ・ギャラリープラザ長野：6月12日～22日及び7月27日～8月20日
- ・ライチョウ会議新潟妙高大会：10月19日～20日
- ・鬼無里ふるさと資料館：10月30日～12月11日
- ・長野市役所渡り廊下：1月16日～2月7日
- ・戸隠地質化石博物館：3月（予定）

○パンフレットの増刷

次の2つのパンフレットについて在庫がなかったため負担金を使用して増刷した。



山登りマップ



一目五山の絶景 32 選

資料1-2

平成30年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 歳入歳出決算（案）

歳入総額	717,150 円
歳出総額	692,912 円
差引総額	24,238 円（平成31年度へ繰り越し）

1. 歳入の部

（単位：円）

科目	予算額	決算額	増減 (予算-決算)	摘要
1 負担金	715,000	715,000	0	6市町村の合計 (ベース5万円+国立公園面積比率割)
2 補助金	0	0	0	
3 繰越金	2,146	2,146	0	
4 その他	0	4	△ 4	受取利子
合計	717,146	717,150	△ 4	

2. 歳出の部

科目	予算額	決算額	増減 (予算-決算)	摘要	
1 会議費	0	0	0	協議会運営費は、環境省負担	
2 事務費	10,000	2,592	7,408	振込手数料等	
3 事業費	業務費	200,000	200,000	0	夏季イベント経費（チラシ印刷、SNS広告等）
	印刷製本費	400,000	399,600	400	パンフレット印刷費 ・山登りマップ ・一目五山の絶景32選
	雑役務費	100,000	90,720	9,280	協議会ホームページ保守費用
4 予備費	7,146	0	7,146		
合計	717,146	692,912	24,234		

平成 31 年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 活動計画（案）

平成 27 年 3 月の妙高戸隠連山国立公園の指定を受け、平成 28 年度から協議会を設立し行動計画に基づいた各種取組を実施してきた。平成 31 年度は、行動計画の目標実現に向け、これまでの取組結果を踏まえて本活動計画を、協議会構成員の協働により実施する。

（1）生物多様性の保全

- ◆市民・研究者・行政が一体となって保全活動を実施
- ◆生物多様性を保全し、かつ適正な利用の推進

○火打山におけるライチョウ保全に関する取組

- ・火打山における協働型環境保全活動の 4 年目として、ライチョウの生息地保全のために年 2 回のイネ科植物の除去試験を行う。また、これまでの試験結果を評価し、今後の保全対策について検討する。さらに今後の取組のために構成員等が協力して（有識者・妙高市・環境省・新潟県生態研究会）、市民参加型の体制を構築する。

○笹ヶ峰での外来種に対する取組

- ・笹ヶ峰におけるオオハンゴンソウの拡大を防ぐため、引き続きオオハンゴンソウの駆除作業を行う。作業は構成員が協力して実施する。

○いもり池での外来種に対する取組

- ・いもり池における外来スイレン対策として、引き続き外来スイレンの駆除作業を行う。また、抜本的な対策に向け駆除方法の検討を進める。

○大谷地湿原での湿原植生の保全に関する取組

- ・大谷地湿原の外来種やヨシの繁茂、乾燥化の対策として、引き続きキショウブの除去及びヨシの刈取りを行う。作業は長野市が中心となり、構成員が協力して実施する。

（2）良好な景観形成

- ◆当国立公園らしい良好な景観が地域資源として適切に保全活用

○管理運営計画策定に向けた作業

- ・引き続き、管理運営計画策定に向けた作業を進める。内容について環境省と調整後意見聴取、パブリックコメント等を実施し、管理運営計画を公表する。

(3) ロングトレイルの設置

- ◆当国立公園を“つなぐ”ことを目的として協働体制を構築
- ◆地域の滞在時間の延長、広域的な周遊利用の増加、インバウンドの増加等
⇒国立公園を通じた地域活性化

○コースの検討

- ・未踏査区間について構成員による踏査を行い、詳細ルートを決定する。

○開通に向けた作業

- ・詳細ルートについて土地所有者、管理者を調査する。
- ・土地所有者や管理者が判明した詳細ルートについて、標識の設置計画案を作成し、関係者と調整を行う。

○維持管理体制の検討

- ・ロングトレイルの維持管理体制や標識の設置者について検討する。

○妙高戸隠連山国立公園サイン統一デザイン基準の完成、周知

- ・携帯トイレに係るピクトグラムを作成し、サイン統一デザイン基準を完成させる。完成させたデザイン基準は、周知のためパンフレットを作成し、協議会関係者及びサイン設置を検討している民間事業者等に配布する。

(4) 登山の活性化

- ◆安全な登山利用の推進
- ◆登山道の維持管理体制の構築

○登山道維持管理体制に関する課題整理

- ・平成 30 年度に調査した登山道維持管理体制の取りまとめ結果をもとに、地域関係者にヒアリング等を行い管理者不明確・人手不足・後継者不足・資金不足等の課題を登山ルートごとに整理する。また、課題の対応策を検討するため、登山道整備維持管理体制に関する先進事例を収集する。

○登山道整備講習会の実施

- ・平成 30 年度に引き続き、合同会社 北海道山岳整備より講師を招き、近自然工法による登山道整備講習会を実施する。

○携帯トイレ利用の普及啓発

- ・携帯トイレブースが設置されている山域の登山口周辺において、携帯トイレの利用促進に向けた普及啓発活動を行う。

(5) エコツアーの活性化

- ◆地域資源の保全と利用の両立
- ◆滞在時間の延長、地域のブランド化

○国立公園内を周遊するモデルルートの開発

- ・平成 29 年度に選定した「一目五山の絶景 32 選」の選定場所等の既存コンテンツを活用し、テーマ毎に国立公園内を周遊できるエコツアーのモデルルートを開発する。作成したモデルルートについては、環境省ホームページ「国立公園へ出かけよう！」のおすすめコースに掲載することで、リンク先の協議会ホームページの「見所をめぐるモデルルート」の拡充を図る。

○糸魚川ジオサイトをめぐるモデルルート開発

- ・糸魚川ジオパーク 10 周年記念イベントと連携し、糸魚川ジオパークのジオサイトをめぐるジオツアーのモデルルートを開発することで、糸魚川ジオパークの魅力を発信させるとともに、国立公園利用と連動した周遊利用の促進を図る。

(6) 情報発信の強化

- ◆妙高戸隠連山国立公園ファンの獲得
- ◆地域としてのまとまりを活かした積極的な情報発信

○同時期に一元的に行うイベントの実施

- ・平成 31 年度も協議会構成員等の地域の関係者が協力し、同時期に一元的に行うイベントを実施する。各地域の持つ魅力を同時期に集中して発信することで、国立公園への来訪動機となること及び周遊利用を促進することを目的とする。

○協議会ホームページ情報の充実

- ・協議会構成員及びその関係者が実施するイベント、ツアー及び行事等を協議会ホームページで一元的に発信する。

○一目五山の絶景 32 選写真展の開催

- ・一目五山の絶景 32 選の周知のため、協議会の 6 市町村において写真展を開催する。開催にあたっては、選定スポットに行きたくするような工夫を検討する。

○各構成員による国立公園の積極的な発信

- ・各構成員が、国立公園名を使用した広報に積極的に努めるとともに、協議会の各種取組について積極的に情報発信を行う。

○地域との協働での情報発信

- ・環境省の子どもパークレンジャー事業により、子ども達に自然体験活動を実施するとともに、子どもたちが主体的に取りまとめた自然情報等を発信する。

○国立公園オフィシャルパートナーを利用した情報発信

- ・国立公園オフィシャルパートナーを利用した情報発信を実施する。

(7) 協議会としての体制の充実

○妙高戸隠連山国立公園版オフィシャルパートナーシップの仕組みづくり

- ・協議会が本国立公園で行う取組の充実を目指すため、協議会と地域の企業・団体等が相互に協力し、「自然環境保全に係る活動」、「適正な公園利用の推進に係る活動」、「国立公園の魅力を発信する活動」、「本協議会の取組への協賛」といった活動等を行う、妙高戸隠連山国立公園版オフィシャルパートナーシップの仕組みづくりを行う。

○協議会ホームページ及び Facebook の運用の充実

- ・協議会ホームページ及び協議会 Facebook の情報の更新作業について、構成員との協働体制での運用の仕組みを検討する。

資料2-2

平成31年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 歳入歳出予算 (案)

歳入総額	746,280 円
歳出総額	746,280 円
差引総額	0 円

1. 歳入の部 (単位：円)

科目	本年度予算額	摘要
1 負担金	715,000	6市町村の合計 (ベース5万円+国立公園面積比率割)
2 補助金	0	
3 繰越金	24,238	
4 その他	0	
合計	739,238	

2. 歳出の部

科目	本年度予算額	摘要
1 会議費	0	協議会運営費は、環境省負担
2 事務費	5,000	郵送料、振込手数料等
3 事業費 業務費	730,000	<ul style="list-style-type: none"> ・サイン統一基準パンフレットの作成【38万円】 ・同時期に一元的に行うイベント実施に係る経費【20万円】(チラシ等の印刷、媒体を活用した効果的な周知等) ・協議会ホームページの保守に係る経費【10万円】 ・一目五山の絶景32選写真展の開催に係る経費【5万円】(写真印刷及び展示機材の購入)
4 予備費	4,238	
合計	739,238	

注) 会長の決するところにより、科目間の流用をすることができる。

【参考】事務局支出の経費

(負担金として支出できないことから、参考として記載する)

1. 歳入の部

組織	本年度予算額	備考
環境省	4,800,000	平成31年度協議会運営費等予算(予定)

2. 歳出の部

組織	項目	本年度予算額	備考
環境省	事業費	4,800,000	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会開催に係る経費 ・ロングトレイルに係る経費 ・登山道維持管理体制の調査に係る経費 ・情報発信に係る経費 ・エコツアーリズムに係る経費 等

(参考) 負担金について

(単位：円)

市町村名	負担金額
糸魚川市	105,000
妙高市	215,000
長野市	155,000
信濃町	100,000
飯綱町	55,000
小谷村	85,000
小計	715,000

※1 負担金は計70万円を目標とし、「ベース5万円+国立公園面積比率割」により配分。

※2 環境省及び関係県は、「負担金」としての拠出はできないため、それぞれの支出方法による。

資料3

平成31年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 役員選出（案）

【役員】

役職	人数	構成員名（案）
会長	1名	信越自然環境事務所長 （平成30年度 信越自然環境事務所長）
副会長	2名	長野市長 （平成30年度 長野市長）
		妙高市長 （平成30年度 妙高市長）
監事	2名	小谷温泉旅館組合代表 （平成30年度 長野市開発公社理事長）
		飯綱高原観光協会会長 （平成30年度 戸隠観光協会会長）

（平成31年度 総会・幹事会の事務局及び経理担当）

役割	構成員名（案）
事務局	信越自然環境事務所 （平成30年度 信越自然環境事務所）
経理担当	糸魚川市 （平成30年度 妙高市）

平成 31 年 3 月 28 日

妙高戸隠連山国立公園連絡協議会
構成員 各位

妙高戸隠連山国立公園連絡協議会会長

平成 30 年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会総会（書面開催）の結果について【報告】

平素より、国立公園行政の推進につきまして、格別のご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
また、協議会の運営への御協力につきまして重ねて御礼申し上げます。

書面開催とさせていただきました本年度の標記総会の議決事項につきましては、皆様からのご回答の結果、否決とすることはありませんでしたので、全ての議決事項を承認させていただくことと致しましたので、ご報告申し上げます。なお、皆様からいただきましたご意見を踏まえ、事務局における今後の対応方針を整理するとともに、提案資料を微修正しましたので、下記のとおりご報告致します。

なお、平成 31 年 3 月 18 日に妙高戸隠連山国立公園連絡協議会規約第 7 条 3 項に基づき監査を行いましたので、別添の監査書にて結果をご報告致します。

引き続き、平成 31 年度における妙高戸隠連山国立公園連絡協議会の活動・運営にご協力いただけますようよろしくお願い致します。

記

- 1 平成 30 年度総会でいただいたご意見について
- 2 平成 30 年度活動報告について…別紙 1
- 3 平成 31 年度ロングトレイル調査計画…別紙 2
(第 2 回歩く利用部会 資料 3)
- 4 平成 31 年度歳入歳出予算について…別紙 3
- 5 監査書

【問い合わせ先】

妙高戸隠連山国立公園連絡協議会事務局
(環境省信越自然環境事務所国立公園課)
担当 黒田・日高
電話 026-231-6572
FAX 026-235-1226
E-mail 黒田：KAZUMA_KURODA@env. go. jp
日高：CHUYA_HIDAKA@env. go. jp

平成30年度妙高戸隠連山国立公園連絡協議会総会でのご意見について

No	意見・指摘事項	発言者	対応
資料1-1	平成30年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 活動報告 (案) について		
	2ページ3行目 大谷地湿原での湿原植生の保全に関する取組「(長野市・飯綱高原観光協会・長野資源循環保全協会・環境省)」の訂正 【訂正前】 飯綱高原観光協会 【訂正後】 (一社) 飯綱高原観光協会 【訂正前】 長野資源循環保全協会 【訂正後】 (一社) 長野資源循環保全協会 青年部会	長野市市長 加藤 久雄	ご意見のとおり修正致しました。(別紙1参照)
資料2-1	平成31年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 活動計画 (案) について		
1	ロングトレイル調査について、どこを、どの時期に踏査するのか詳細を詰めていただきたい。	信濃町長 横川 正知	平成30年1月に開催した第2回歩く利用部会において、調査計画案を示しておりましたので、ご参考までにお示し致します。(別紙2参照) 日時等の詳細については、各種調整の上で調査前に改めてご連絡致します。
資料2-2	平成31年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 歳入歳出予算 (案) について		
1	平成31年度歳出予算(案)の収支金額が異なっている。	信濃町長 横川 正知	下記のとおり、修正致しました。(別紙3参照) 【訂正前】 歳入総額 746,280円 歳出総額 746,280円 【訂正後】 歳入総額 739,238円 歳出総額 739,238円
その他			
1	事務局には、総会のあり方、つまり、総会の構成員、総会での検討内容、総会の開催方法等について、早急に再検討し、その結果を幹事会に報告・提案することを求めます。	東京農工大学大学院 農学研究教授 土屋 俊幸	書面会議での総会開催を常態化することは考えていませんが、一方で協議会を長く続けていくために構成員の負担を軽減した形での運営のあり方を検討していく必要があると考えています。事務局で検討を行い、平成31年度幹事会等の場において提案致します。
2	管理運営方針や行動計画の達成に向けて協議会で一体的に取り組む必要のある企画や課題を明確化するために、国立公園の現場で具体的にどのような動きや問題が起きているのか、各地域や関係機関の間で共有できる機会を、幹事会や総会の中で確保することを要請します。	富山大学 芸術文化学部准教授 奥 敬一	現状においても、総会・幹事会はその様な場として位置づけられてはおりますが、ご指摘を踏まえ、今後は各構成員から個別に報告や情報提供いただく等の対応を検討して参ります。

平成 30 年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 活動報告

平成 30 年度は幹事会のほか、「歩く利用部会」及び「情報発信部会」を設け、行動計画の目標実現に向けて以下の取組を実施した。なお、取組は協議会構成員をはじめ地域住民を含めた協働で行った。

(1) 生物多様性の保全

○火打山におけるライチョウ保全に関する取組

ここ 30 年程度で植生の変化が認められた火打山において、ライチョウの生息環境保全のために、試験的に年 2 回のイネ科植物の除去試験を行った。平成 28 年度から行っており、今年度も構成員等（ライチョウ有識者・妙高市・環境省・新潟県生態研究会・長野県ライチョウサポーターズ）が協力して行った。



実験区（右）と対象区（左）の様子



作業の様子

○笹ヶ峰での外来種に対する取組

火打山の登山口の一つである笹ヶ峰において、特定外来生物のオオハンゴウソウの駆除を構成員等（地域住民・妙高市・環境省）が協力して行った。



作業の様子

○いもり池での生物多様性の保全に対する取組

①外来スイレン除去

いもり池の水面に妙高山が映る「逆さ妙高」の景色を取り戻すため、外来スイレン除去で 2 つの事業を行った。一つは、ジョレンによる外来スイレンの引き上げ作業を妙高市主体で構成員等（地域住民・妙高市環境サポーターズ・環境省）が協力して行った。もう一つは、いもり池の一部（約 100 m²）において外来スイレンの根茎を完全に除去し、この後の繁殖の経過を確認するための試験的な取組を環境省のグリーンワーカー事業で行った。



ジョレンによる外来スイレンの除去作業



外来スイレンの根茎からの除去作業

②湿地の生物多様性の保全

いもり池周辺の湿地では、乾燥化、陸地化が進み、ミズバショウなどの湿地植物の生育範囲が狭まっている。ハンノキの侵入と樹林化がその要因の一つと考えられるため、ハンノキ等の伐採を環境省のグリーンワーカー事業で行った。



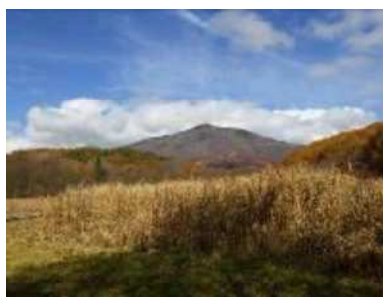
湿地に侵入したハンノキ

○大谷地湿原での湿原植生の保全に関する取組

飯綱高原の大谷地湿原では、キショウブなどの外来植物やヨシの繁茂がみられ、乾燥地化が懸念されている。その対策として、キショウブの駆除及びヨシの刈取りを行った。作業は構成員等（長野市・(一社) 飯綱高原観光協会・(一社) 長野県資源循環保全協会 青年部会・環境省）が協力して行った。



キショウブ駆除作業



ヨシ刈取り
←刈取り前
↓刈取り後



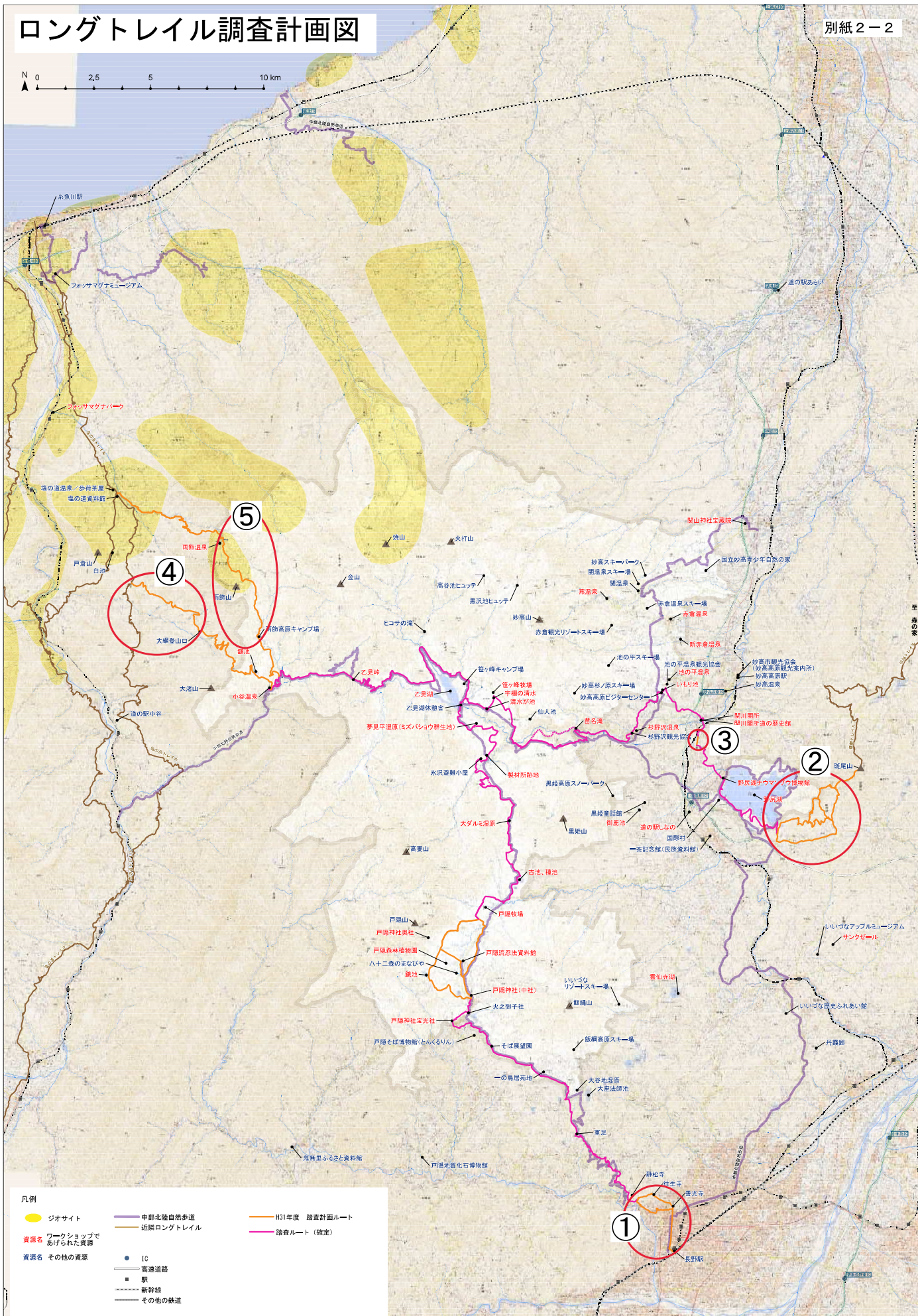
別紙2-1

平成31年度ロングトレイル調査計画

番号	位置	区間	調査概要	踏査予定時期
1	善光寺	長野駅～善光寺～往生寺～西長野～善光寺	・善光寺から静松寺までのルートを探る。(約7km)	4月中旬
2	野尻湖	斑尾山登山道～荒瀬原林道～荒瀬原～斑尾山登山道	・象の小径から斑尾山山頂に至るルートを探る。(約14km)	5-6月頃
3	野尻湖西岸	やすらぎの森オートキャンプ場～池尻川発電所	・未整備区間約500mについて、切り開いた場合に今後管理できるか検討のため踏査する。 ・踏査は、整備への参画が期待されている企業の都合に合わせて実施する。(約2km)	6月頃
4	大網	大網登山道～八百平	・未整備区間である八百平を経由して塩の道に辿り着けるか確認。	6-7月頃
5	雨飾山	小谷温泉～雨飾山～雨飾山荘	・雨飾山を経由する場合のルート(約9km)	7-8月

ロングトレイル調査計画図

別紙2-2



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平30情複, 第1589号)

別紙3

平成31年度 妙高戸隠連山国立公園連絡協議会 歳入歳出予算（案）

歳入総額	746,280	739,238 円
歳出総額	746,280	739,238 円
差引総額		0 円

1. 歳入の部 (単位：円)

科目	本年度予算額	摘要
1 負担金	715,000	6市町村の合計 (ベース5万円+国立公園面積比率割)
2 補助金	0	
3 繰越金	24,238	
4 その他	0	
合計	739,238	

2. 歳出の部

科目	本年度予算額	摘要
1 会議費	0	協議会運営費は、環境省負担
2 事務費	5,000	郵送料、振込手数料等
3 事業費	730,000	<ul style="list-style-type: none"> ・サイン統一基準パンフレットの作成【38万円】 ・同時期に一元的に行うイベント実施に係る経費【20万円】 (チラシ等の印刷、媒体を活用した効果的な周知等) ・協議会ホームページの保守に係る経費【10万円】 ・一目五山の絶景32選写真展の開催に係る経費【5万円】 (写真印刷及び展示機材の購入)
業務費		
4 予備費	4,238	
合計	739,238	

注) 会長の決するところにより、科目間の流用をすることができる。

【参考】事務局支出の経費
(負担金として支出できないことから、参考として記載する)

1. 歳入の部

組織	本年度予算額	備考
環境省	4,800,000	平成31年度協議会運営費等予算(予定)

2. 歳出の部

組織	項目	本年度予算額	備考
環境省	事業費	4,800,000	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会開催に係る経費 ・ロングトレイルに係る経費 ・登山道維持管理体制の調査に係る経費 ・情報発信に係る経費 ・エコツーリズムに係る経費 等